

マイナンバーの不思議



11月に入っても今なお、マイナンバー通知カードは届かない。

制度が確定してからのケンケンガクガクとした大騒動は一体何だったのだろうか。

熱しやすくも冷めやすい、日本人らしいということか。

少し冷静になって考えてみると、当面はあまり影響がないように思われる。

確かに、給料を受け取るため勤務先に連絡しなければならないし、役所での税金や保険の手続きには必要となるが、新聞紙上の「恐怖のマイナンバー」は少し大袈裟だろう。

「勤め先に副業がバレる」「来年から確定申告しなければ」など騒がしかったが、それはレアなケースと思いたい。おミス以外たいした副業にはならないだろうし、業種までバレることはない。確かに3年後からは少し変わって、預貯金口座との結び付け開始や医療情報など扱われる個人情報も増えてくる。利便性の向上にともなって不安感も増加していくこととなるだろう。「他人に自分のことを知られたくない。」と思うのは当然なことだし、口座内のお金の流れは個人情報の最たる事柄である。

税務署は贈与税や相続税の捕捉のために徐々に利用していこう。しかしながら「国に口座内容を監視される。」など耐えられないと思いつめることもない。一般的な国民は脱税などとは無縁であり、間違っても「怪しいな」と眼をつけられないのが肝要だ。

マイナンバーの利用頻度はこれからもそんなに多くはない。キャッシュカードより少ないが、年金手帳よりは多い程度だろう。紛失すれば何かと面倒。普段は家に大切に保管したい。

クレジットカードやキャッシュカードを無造作に放り込み、財布をポンポンにした人をよく見かける。簡単な四桁の暗証番号が唯一のセキュリティー、このギャップは不思議である。ましてや、クレジットのナンバーを覚えている人はいないし、キャッシュカードのナンバーは口座番号となっている。

自分で必要と思い、自分で作ったのだから安心なのだろうか。

それとも、日本という国より銀行や信販会社の方が信用できるとでもいうのだろうか。

